



For Precious Life

For  
Precious Life



高温写真転写タイル

PHOTO-TILE





# INAX PHOTO-TILE 高温写真転写タイル

## 100年ならぬ1000年プリントのフォトタイル

1万年以上も前の縄文式土器や数千年前のタイルを我々が見ることができるのは、それが「やきもの」だから。「やきもの」の耐久性は、数千年前の人々の生活の様子などを伝えてくれる。そんな「やきもの」に写真を焼き付けることができたなら、未来の人たちに今を伝えることができる。こんな思いから開発された高温写真転写技術は、タイルとしての表現方法や装飾の可能性を広げる技術です。この新しい技術を有効に利用することが、我々に与えられた使命です。

### 1. フォトタイルは、写真が映える「白色のタイル」に技があります。

すべての色の基本となる白色は、やきもの世界でもやはり基本色であり、「純白のやきもの」への追求は永遠の課題です。フォトタイルの開発は、写真がもっとも鮮やかに見える白色を見つけることから始めました。色彩管理の次は、光の反射具合や光沢度を調整し、最も適した白色のタイルを印画紙(タイル)として用いました。

### 2. フォトタイルは、写真のクオリティ「高度な製版技術」に技があります。

フォトタイルは、大日本印刷株式会社との共同開発による、新しい製版技術と転写紙技術を適用することで実現しました。銀座で開催された“GINZA PHOTOGRAMM 2006”では、マグナムフォトの報道写真家たちの厳しい眼を満足することのできる写真のクオリティを再現しています。

### 3. フォトタイルは、耐久性(耐候性、耐水性)に優れています。

900℃を超える温度で焼き付けられた写真の色合いは、INAXが長年培ってきた耐久性を得るための技術力により、耐水性、耐候性に優れています。

※促進耐候性試験：1000時間(10年間相当)後、色合い変化なし(メタルウェザー試験 INAX調べ)

### 4. フォトタイルは、高層ビルも大きな広場もギャラリーになります。

“GINZA PHOTOGRAMM 2006”に展示されたマグナムフォト写真家集団による写真は、300角(300×300mm)のタイルを4枚組み合わせると一枚の写真を再現しています。また“TOKYO DESIGNER WEEK 2006”のコンテナ展では、200角(200×200mm)のタイルを組み合わせるとタテ約1300mm×ヨコ約3800mm(133枚)の写真に仕上げました。高層ビルの壁面を一枚の写真で覆ってしまうことも可能です。

## 時間経過によるフォトタイルの見え方

〈午前～正午〉



〈夕刻〉



〈夜〉



※ “TOKYO DESIGNER WEEK 2006” のコンテナ展より

## タイルづくり“写真が映える「白」へ” 印画紙としてのタイルの品質

1. 素焼きと本焼きの2度焼き工程を経てタイルは強固になります



2. 表面の滑らかさ、光沢度や光の反射率の検査を行います



3. 打音による品質チェックや目視による厳しい検査を行います



4. 高温写真転写タイルは、厳しい検査を合格したものです



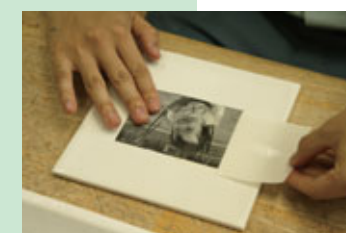
## 転写紙づくり“数値化できない「職人技」” 写真の製版技術

写真の“原版”から正確に再現するには、写真家それぞれの感性を読み取る技術者によって、色調や深みを考え写真データを加工します。

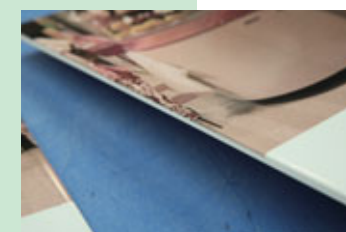
転写紙を作製

## 写真転写“難色「赤」への挑戦” 写真の印刷技術

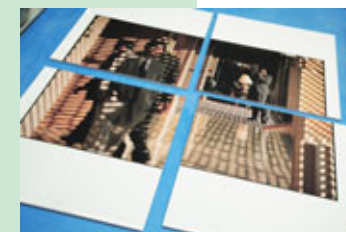
1. 水にぬらした転写紙シートをタイルへ移します



2. タイルを組合せて一枚の写真にする場合、タイルの内側に転写紙を1mm送り込んでタイルの継ぎ目を目立たなくします



3. タイルを組合せて一枚の写真にする場合、写真転写や焼きムラの微妙なズレが1枚でもあると合わなくなるシビアな工程です



4. 900℃以上の温度で写真を焼付けることで耐久性が得られます



5. タイルの風合い、写真の色合い、タイルを合わせたときのバランスなど、厳密なチェックを繰り返し完成品を得ます

